

小平市中央図書館二階展示ギャラリー『鷹場と小平』より

差上申御請書之事

(小川家文書 D6-74)

一御鷹場内多摩郡小川村

役人共奉ニ申上候、去丑九

月中村方天王森ニ於

子共花火いたし候趣

被レ為レ及ニ御聞一追々御吟味

之段一言之申訳無ニ

御座一奉ニ恐入一候、然ル処

今般格別之御慈愛

を以御書付差上被ニ仰渡一

承知奉レ畏候、以来者

嚴敷村方へ申渡不埒

之儀無レ之様可レ仕候、依レ之

御請書奉ニ差上候処

如レ件

小川村

名主代

寅正月

金五郎

組頭

弥左衛門

立川村

御陣屋

御役人衆中様



「用語」

御鷹場内：尾張家の鷹場の範囲内

「解説」

今回は、中央図書館二階ギャラリーで開催中の古文書展示「鷹場と小平」からの文書を紹介します。江戸時代、小平市域は尾張家の鷹場だったため鷹場関係の史料が数多く残されています。小川村、大沼田新田の名主らが鷹場預り案内役に任命され、村々は幕府の管理のもと、様々な規制と負担を負っていました。この文書は天保13（1842）年、小川村の名主代理から立川陣屋宛に出された請書で、子供が花火で遊んだことを厳しく取り締まる内容です。一見鷹場とは無関係に思われますが、大きな音がすると鷹の餌となる鳥の居付きが悪くなり狩に影響するため、花火のほか、祭りや家屋の工事も規制されていたのです。

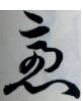
次に文字を見ていきましょう。今回は比較的難易度が高い文書です。本文一行目



「鷹」は、「まだれ」が短く判読しづらいです。



「原」・「慶」・「あ」



「慮」など、古文書では左側に伸びる「たれ」が短くなりがちです。この特徴を覚えておいてください。



「本成」は「森」の異体字です。



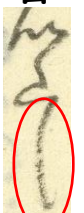
「木」・「と表すこと

もあります。慈愛の

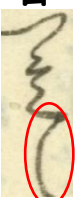


「愛」は難解です。これは仮名「あ」の草書体の形です。

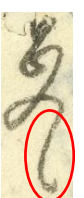
また、本文4行目



「し」、6行目



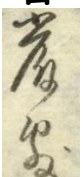
「之」、



「候」が

どれも仮名「し」の形で判読しづらいです。「候」は短めで終筆が上に向きます。た

だの「点」になる場合もあります。11行目



「厳敷」の他に「仕間敷」

「宣敷」^{よろしく}「夥敷」^{おびたたく}「六ヶ敷」^{むつかしく}（難しく）「疑敷」^{うたがわしく}と、「…敷」は様々なバリエーションがあります。



「敷」の字をマスターすると次第に読める様になるでしょう。

※古文書展示は令和6年12月18日（水）まで開催しています。